

庭と園に学ぶ

～文化財としての庭～



2024 18:00-19:30

4.15 - 5.27

Every Monday

参加費無料

定員 **300** 名

※参加登録制
(非会員も参加可)

参加登録



<https://forms.gle/w8aoqzd9hXsF5bBM9>

04.15 日本における文化財庭園の状況

青木 達司 氏
[文化庁]

04.22 文化財庭園の保存・活用計画

吉村 龍二 氏
[(株)環境事業計画研究所]

04.30 福岡県における名勝庭園の保存活用

正田 実知彦 氏
[福岡県]

05.13 文化財庭園の管理と活用
—実務の立場から

山田 拓広 氏
[花豊造園(株)]

05.20 文化財庭園の知名度と課題
—愛好しめぐる立場から

イトウ マサトシ 氏
[「おにわさん」編集者]

05.27 池庭造営の系譜
—京都・平泉・鎌倉・水無瀬

前川 佳代 氏
[奈良女子大学 大和・紀伊半島学研究所
古代学・聖地学研究センター]

日本庭園学会は、日本庭園を多方面から総合的に研究・討議するとともに、日本庭園を軸として日本文化について考究することを趣旨としています。

本学会では、日本庭園の研究を造園の専門分野のみからアプローチするのは不十分であると考えます。建築・考古の分野はもとより、生活文化としての茶道・華道、あるいは精神文化としての哲学・宗教、特に仏教文化の分野、さらに美術・工芸、絵画等々、多方面から行われてこそ、はじめてその完きを得るものと考えます。そのため、本オンラインセミナーでは、多彩な分野の先生に御講演をいただき、日本庭園学の深淵に触れる企画としています。

本セミナーは学会主催ですが、会員のみならず広く一般の方に向けて、様々な**実践智**(現場の肉声)と**思考智**(研究の成果)をわかりやすく話題提供し、日本庭園学のこれまでとこれからを展望していく内容です。

Zoom開催のため、参加登録制*にて、毎回どなたでも、世界中のどこからでも、視聴・参加可能。

多くの方々の参加をお待ちしております。

※参加登録制について:開催期間内であればいつでも登録可能。一度の参加登録で全ての回を聴講可能。

Form 利用できない方は、①お名前 ②ご所属 ③ メールアドレス ④会員 / 非会員 を記載の上、日本庭園学会オンラインセミナー事務局(teienzoom@gmail.com)までお申込みください。電話・郵送でのお申込みに応じられません。

※事前登録者のうち、**学会員限定**で後日に見逃し配信を実施(半年程度)。この機会に学会入会のご検討をお願いいたします。

庭と園に学ぶ

～文化財としての庭～



4月15日 「日本における文化財庭園の状況」 青木 達司

「文化財保護法」により指定されている国の名勝庭園について、歴史と現況について概説し、その保存と継承に関わる諸課題などについて触れる。

4月22日 「文化財庭園の保存・活用計画」 吉村 龍二

国指定名勝や史跡の保存と活用に関して、必要な計画立案の要点と課題について、これまで報告者が関わった具体的な事例に基づき概説する。

4月30日 「福岡県における名勝庭園の保存活用」 正田 実知彦

福岡県には8件の国指定名勝が存在する。その内、7件は庭園である。2017年、国指定名勝庭園を有する6市町(飯塚市・柳川市・みやま市・添田町・川崎町・築上町)による福岡県市町村名勝庭園協議会が発足した。同協議会では、これまで、庭園紹介冊子の刊行、パネル展示、庭園ゼミなどを実施し、名勝庭園の保存管理に関する知識や技術の向上を図るとともに、名勝庭園の価値を広く発信してきた。福岡県における名勝庭園の価値と保存管理のあり方、そして同協議会の活動を中心とした庭園の活用事例について報告する。※4月29日(月)は休日のため、4月30日(火)に開催

5月13日 「文化財庭園の管理と活用―実務の立場から」 山田 拓広

国指定名勝庭園の維持管理を担う管理者の立場から、文化財庭園の保存・管理と活用の現状について、報告者が関わる具体的な庭園事例をあげながら概説する。

5月20日 「文化財庭園の知名度と課題―愛好しめぐる立場から」 イトウ マサトシ

2020年、国指定名勝庭園「藤江氏魚楽園」「時国氏庭園」の閉園。青森県指定名勝「清藤家庭園」の指定解除と解体消失。2023年、国指定名勝庭園「上時国氏庭園」の閉園。ごく一部の有名庭園を除いて集客に苦戦する「庭園」。人口減少の加速する日本の地方で文化財庭園の存在感を残すためには何が必要なのでしょうか。庭を愛好し全国をめぐる中で見えてきた課題についてご紹介できればと思います。

5月27日 「池庭造営の系譜―京都・平泉・鎌倉・水無瀬」 前川 佳代

報告者は、平泉の庭園の源流を京都や奈良に求めてきたが、具体的な造営者はわからなかった。奥州へ侵攻した源頼朝は、平泉の堂舎を意識して永福寺を建立する。その池の造営者は明らかで、池の形と造技術の系統から、永福寺以前の平泉毛越寺庭園や永福寺以後の水無瀬や大慈寺庭園の形と造営者について考えるところを述べたい。

2024 18:00-19:30

4.15 - 5.27

Every Monday

参加費無料

定員 300 名

※参加登録制
(非会員も参加可)

参加登録

